



新年のごあいさつ

理事長 上野 浩也

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は当組合の事業運営に対してご指導とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、アメリカ合衆国第45代大統領にドナルド・トランプ氏の就任、北朝鮮によるミサイル発射など、海外ニュースに目が離せない年となりました。

日本政治では7月2日に東京都議選が執行され、小池百合子都知事が代表を務める「都民ファーストの会」が過半数の議席を獲得し、都議会第1党になりました。また、森友・加計学園問題をかかえる中、10月22日に衆議院総選挙が執行され、自民党・公明党の連立政権が議席の3分の2を獲得しました。経済面においては、雇用情勢の改善や株式相場の上昇が続いており、国内景気は緩やかな拡大が続いていることから、今後の個人消費の持ち直しが期待されます。

いよいよ今年4月から、都道府県が財政運営の責任主体となる新国民健康保険制度が施行されます。地域住民と身近な関係にある市町村は、保険料の賦課・徴収、保険給付の決定、被保険者の特性に応じたきめ細かい保健事業の推進など、役割分担を行い、都道府県が市町村とともに国保制度の安定化を図ることになります。我々国保組合は、長年培った同種同業の者で組織する組合方式の機能を活かし、組合員と家族の健康と生活を守る独立した医療保険者として積極的な事業運営を推進してまいります。

当組合においては、今年度から保険料を改定させていただきました。今後も健全な組合運営ができるよう、時間をかけて問題点を一つ一つ洗い出し、委員会や理事会の場で提案し、見直しをしております。また、組合が保有する個人番号等の個人情報の保護について、セキュリティ対策の強化、さらなる安全な管理体制の構築を図り、本格的に開始された地方公共団体等との情報連携を活用し、事務の効率化を図ってまいります。

今年は、1月から3月にかけて組合員資格調査、3月下旬に被保険者証の更新、夏には所得調査の実施を予定しておりますので、ご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、組合員とご家族の皆様におかれましては、今年が穏やかな1年であるとともに、ご繁栄を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

監	理	副	理	謹 賀 新 年													
事	事	理	事														
事	事	事	事														
事	事	事	事														
金	益	宮	豊	澤	山	大	森	井	吉	小	長	池	細	西	信	小	上
田	田	本	嶋	田	中	西	川	上	田	我	谷	内	川	村	吉	林	野
俊		佳	一	明	祥	良	賢	義	順	光	一	善	哲	義	秀	正	浩
彦	進	幸	俊	広	悟	仁	悟	平	一	博	雄	一	夫	宜	起	典	也



京都府知事 山田 啓二

明日の京都を描くため

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返って

京都府では、林田・荒巻府政以来築き上げてきた社会基盤がいよいよ実を結ぶ時期となりました。昨年4月に新名神高速道路の城陽・八幡京田辺間が開通し、ついに京都は京丹後市から木津川市まで高速道路によってひとつに繋がりました。

「海の京都」、「森の京都」と続き、昨年は「お茶の京都」事業により、南部地域全体に大変多くの人が訪れるとともに、北部地域では、美しい絹織物の地「丹後ちりめん回廊」が日本遺産に認定されるなど、観光面でも過去最高の賑わいとなり、府域全体が大きな盛り上がりを見せた一年となりました。

また、文化庁の全面的京都移転も正式に決定、移転場所も府庁の警察本部本館に決まり、名実ともに京都が「文化首都」と位置付けられ、文化芸術立国に向け大きな役割を担うことになった重要な節目の年となりました。

しかしながら一方では、依然、我が国周辺で安全保障について大きな緊迫感が続くとともに、少子高齢化や東京一極集中の加速、子どもの貧困など様々な課題が改めて浮き彫りになった一年でもありました。

未来を切り拓く鍵

こうした背景には、少子高齢化や情報化、国際化の中で、家族形態も含め社会の多様化が進展することに対して、「地域の力」「自治の力」が低下し、旧来の制度や考え方では支えきれない局面が生まれてきたことがあげられると思います。

特に近年では、様々な格差の問題や孤立社会といわれる無関心時代の到来も指摘される中、京都府では、従来から地域力再生を掲げ、地域の絆などの新しい地域づくりの環境・土台を基に、半公半Xの公共員制度や地域の公民の生活機能を集中化したコミュニティコンビニの整備、子ども食堂や居場所づくりのためのこどもの城事業、さらに高齢化時代に医療、介護、福祉を連結させる地域包括ケアの推進、女性活躍から障害のある方の農業分野での活躍を支える農福連携など、幅広く「共生社会」の実現に向け取り組みを進めてまいりました。

新しい時代へ

今年は、「明治」への改元、そして京都府の設置から150周年にあたります。当時、京都では、多くの人や産業が東京へ移り、3分の1の人口が減少したため、千年にわたって都として栄えた京都は、かつてない大きな危機に直面しました。

そのような激動の時代にあっても、京都府は、日本初の小学校（上京27番組（柳池）小学校）や女学校（新英学校および女紅場）、盲ろう学校（京都盲啞院）の開校、府立医科大学の前身である医学校を療病院に付置、京都大学の前身である第三高等中学校の大阪からの誘致、同志社大学の設置許可など人づくりを中心に府政を進め、さらに琵琶湖疏水の建設や経済界とも連動した京都博覧会の開催で産業の振興を図り、西陣織や茶業など様々な分野で新たな取り組みを進め、京都を復活させました。これが京都府政の原点であります。

そうした先人たちの努力が今日の京都の礎を築いてきたのであり、そこには、どんなに困難なときも未来に投資をして、未来のために現代を生きる京都の気概があります。

この150周年という節目を迎えるにあたり、今の京都の基盤が形作られてきた明治の時代を振り返り、常に先進的な取り組みを続けてきた先人たちの姿勢を受け継いで、新しい人づくりと文化力づくりによって京都の生き方が一層魅力あるものになるように、私たちは全力を挙げなければなりません。

京都には今、年間8,700万人もの観光客が訪れており、世界的にも日本、そして日本文化のふるさと・京都への関心が高まっていますが、2019年から3年連続でラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック競技大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西と大規模な国際大会が開催されます。

この機を捉え、「京都文化力プロジェクト2016-2020」をはじめオール京都で力を合わせ、京都から日本の文化を発信し、大きな交流の渦が巻き起こるよう、全力を傾けてまいりたいと存じます。

人と文化によって地域の資源、歴史、伝統を活かし、人と人が支え合う共生社会の実現により、地域の力を再び取り戻し、新たな時代を切り拓くため、共に歩んでまいりましょう。

私は、この4月で任期を全うする予定ですが、この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



世界文化自由都市・ 京都の実現を目指して

京都市長 門川 大作

あけましておめでとうございます。

新年に当たり、京都府建設業職別連合国民健康保険組合の皆さんの御多幸を心からお祈りいたします。

皆さんの御支援をいただき、市長就任後10回目の新年を迎えました。この間、徹底した現地現場主義で八千近い市民活動や市政の最前線を訪れ、京都の今を見つめ、未来のためにまい進してまいりました。

「美しいまち京都が誇らしい」「まち歩きを安心して楽しめるようになりました」。多くの方からこうしたお声を頂く度、京都のまちが着実に深化してきたことを肌で感じ、嬉しく、御尽力の皆さんに感謝しています。

そして迎えた本年。京都が最高の都市理念として掲げた世界文化自由都市宣言から40年です。「広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市」。この理想の実現を目指し、「文化」を基軸としたまちづくりを更に加速させる年がスタートしました！

文化庁が機能を強化し、2021年度に京都へ全面的に移転。これを大きな力に、子育て支援や教育・福祉、観光、景観、環境、中小企業の活性化、雇用の創出、安心安全など、あらゆる施策に文化で横串を通す。さらに、文化や地域活動に親しむ「京都ならではの働き方改革」でまちに一層の活力を生み、地方創生のモデルを示す。新年を迎え、決意を新たにしています。

そして本年は、明治維新から150年。都の地位を失い、都市存亡の危機を迎えていた京都を、全国初の小学校や芸大、工業高校の創設、琵琶湖疏水や市電の開業などで見事に復興させた先人たち。その志と偉業に学び、共に挑み続ければ、様々な課題を克服し、世界文化自由都市の理想を実現できる。私は確信しています。

「日本に、世界に、京都があってよかった」と多くの方に実感していただけるよう、本年も共々に全力を尽くします。

❖ 上半期医療費の集計がまとまりました ❖

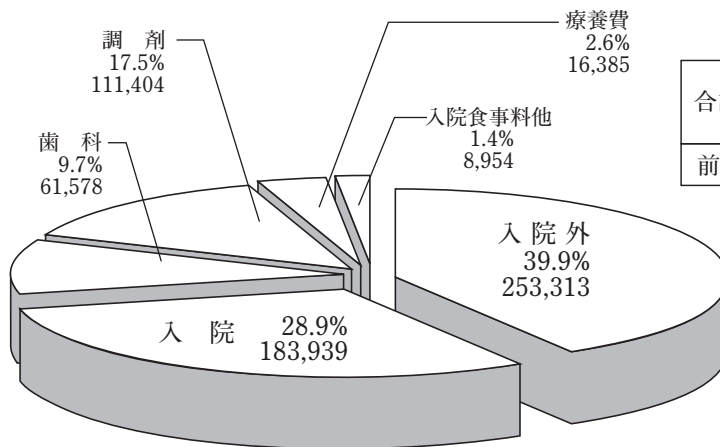
平成29年度上半期の医療費は、前年より11,190千円の減(-1.7%)になり、被保険者一人当りは増加しています。

特定健康診査(40歳～74歳の被保険者対象)や人間ドック(35歳以上の被保険者対象)の助成をしておりますので、積極的に受診し、生活習慣を見直すよう心がけてください。

今後とも医療費の節減にご協力をお願いします。

平成29年度上半期医療費の構成割合

単位：千円



合計	28年度	646,763千円
	29年度	635,573千円
前年度比較		1.7%減

1人当上半期医療費の動向

単位：円
()は前年度比

